

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 広島県立広島中学校・広島高等学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例：小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒739-2125

広島県東広島市高屋町中島31-7

E-mail hcyuko@hiroshima-c.ed.jp

Website http://www.hcyuko.hiroshima-c.ed.jp

幼児児童生徒数 男子 486 名 女子 706 名 合計 1192 名

幼児・児童・生徒の年齢 13 歳～18 歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

本校は、教育方針に「グローバル化時代に活躍できる人材の育成」をあげている。その中で、開校当初から中学校に学校指定教科として「ことば科」を設置し、グローバル化時代に必要な「論理的な思考力・表現力」の育成を行ってきた。生徒が環境問題や人権問題などを地球的な視野で考え、それらの課題を自らの問題として取り組み、成果をあげていくためには、「問題や現象の背景の理解」「多面的かつ総合的なものの見方」を育むことが必要である。そこで、ESDで育みたい力として挙げられている「体系的な思考力」や「データや情報の分析能力」などの育成が欠かせないと考えた。これらは、「ことばの力」そのものであり、「ことば科」を各教科の核として本校におけるESDの基盤かつ中軸となる取組と位置付けている。

「ことば科」では、「論理(日本語)領域」「ロジカル・コミュニケーション(英語)領域」という2つの視点から思考力を養う実践や英語でのプレゼンテーションに役立つ「表現の型」をトレーニングする。「論理」の取組では、社会、数学、理科等と国語科が協働し、問題解決的な学習を行っている。例えば、情報分析の視点を理科の教員が提示し、表現の方法を国語科の教員が指導を行っている。それを応用し、英語でのプレゼンテーションやディベート等を行い、日本語・英語双方の「ことばの力」を身に付ける「ロジカル・コミュニケーション」を設定している。また、高等学校は平成27年度からスーパーグローバル

ハイスクール（SGH）の指定を受け、「持続可能な社会の構築に貢献できるグローバルリーダーの育成」をテーマに研究開発を行っている。この取組はユネスコスクールの取組と軌を一にするものであるが、この報告書には SGH 事業として実施したものの詳細は含めない。

① 多様な考え方を引き出す言語活動を取り入れた活動

中学校第2学年では、国語科と社会科の教員のT・T（ティーム・ティーチング）による合科的な学習として論理領域「ディベート」を行っている。ディベートは、肯定・否定の立場で一つの論題について協議を行う活動であり、本年度は、「環境問題」や「エネルギー問題」など、現代社会が抱える問題を包括的に捉えられるよう、「持続可能な社会」づくりとして「日本は小売店の深夜営業を禁止すべきである。是か非か。」という論題を設定して授業を行った。生徒は様々な立場（労働者、消費者）に立って情報を収集し、自分たちの主張をまとめた。この学習を終えた生徒の感想は次の通りである。「今までとは違って、他のクラスの発表も聞くことができました。特に印象に残ったのは、否定側で私たちにはない視点で立論を作成していたことです。話し合っ、自分自身の考えを深めることができましたと思います。」生徒のディベートを通して現代社会の問題点を様々な視点から捉える姿が見られた。



② 系統性を意識した活動

中学校第3学年では、中学校第2学年で学習した論理「ディベート」やこれまでの「ロジカル・コミュニケーション」で学習した表現の型などを応用して、英語科の教員を中心とした「英語ディベート」を行っている。下の表は本校の3年間のことば科のカリキュラムの系統性を示したものである。本年度は、「We should build a bridge between Miyajimaguchi and Miyajima.（宮島口から宮島まで橋をかけるべきである。）」という論題を設定し、経済発展や環境問題、観光業や住民の生活等について情報を収集し、お互いの意見を聞くことで、「持続可能な社会」づくりについて考えを深めさせた。この学習を終えた生徒の感想は次の通りである。「3年間で学んだことが役に立ったと感じました。例えば、ナンバリング、ものごとを見る角度、相手に伝える力などを身につけ、それを生かしていくことができたと思います。また、相手へ伝えるという意識を持つことができるようになりました。」生徒は、3年間の学びの中で論理的な思考力や表現力の高まりを実感することができたようである。



		第1学年				第2学年				第3学年			
論理領域 (国語系)	関係 教科	国語	国語×理 科・社会	国語			国語×社会		数学×国語		国語×社会		
	単元	言語技術係 重・文動 トレ ーニング	情報を読み 解く (理・社系)	プレゼンテ ーション			ディベート		情報を読み 解く (数学系)		弁論大会 (演説)		
	内容	話型・文型等 の型 (約束手 をトレーニン グする	写真やグラフ 等の資料から 情報を取り取 り、議論する	課題、場面等 に応じた説明 や紹介などを 日本語で行う			現代社会の問 題をテーマ に、ディベ ートを行う		統計資料を作 成し、そこか ら分かる情報 を読み取る		現代社会の問 題をテーマ に、自分の考 えを演説する		
ロジカル コミュニ ケーション 領域 (英語系)	関係 教科			英語×国語	英語	英語×国語		英語		英語×国語		英語	
	単元			プレゼンテ ーション	スキット	パラグラフ ライティン グ		レシテーシ ョン		英語ディベ ート (基礎編)		英語ディベ ート (応用編)	
	内容			課題、場面等 に応じた説明 や紹介などを 英語で行う	日本等の昔話 を要約し、英 語劇で再現・ 表現する	外国の子供を 対象に、学校 紹介文を英語 で書く		英語で書かれ た物語や演説 を唱読し、再 現・表現する		身近な問題を テーマに、英 語でディベ ートを行う		身近な問題を テーマに、英 語でディベ ート大会を行う	

(矢印は、同じタイプの言語能力を育成する単元のつながりを示すもの。「英語×国語」は英語科と国語科の教員がディーム・ティーチングで合科的・教科横断的な連携を示すもの。)

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input checked="" type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

学校指定教科「ことば科」自主教材

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

中学校では、学校指定教科「ことば科」を中心に、高等学校では、「総合的な学習の時間」を中心に、学習活動を行っている。校内研修や公開授業研究会を通して、内部・外部の評価をもらい、改善に努めている。

中学校第1学年の家庭科では、持続可能な食生活を送るための食生活の工夫を目標に、世界や日本の食糧事情を学び、自分たちが取り組めることを考え、エコクッキングの調理実習に取り組んだ。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

校内研修で教員の異動に伴う着任者に、本校の実践を伝えたり、授業を公開したりしている。そして、人が代わっても取組が継続するように組織的に推進している。また、公開授業研究会や各種の外部評価委員会を開催し、内部・外部の評価をいただく機会を作っている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

学校経営目標に「SGH・ESDで持続可能な社会づくりの担い手として批判的思考力や論理的思考力・表現力を身に付け、新たな価値を創造しようとしている」と項目を立て、生徒のアンケートや卒業生へのインタビューを評価指標として検証を行った。また、学校関係者評価委員や学校評議委員に評価をしていただき、指導をいただいている。結果として生徒の論理的な思考力・表現力の高まりが見られ、卒業後も学んだことが新たな価値を生み出す際に活用されていることがわかった。今後もカリキュラムや授業内容の研修を行い、更なる高まりを目指していくことが求められている。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

公開授業研究会やパフォーマンスコンテストの外部公開など、生徒の活躍の様子を公開したり、ホームページで報告したり、マスメディアの取材を受けたりしている。また、コンテストの際は、指導・助言者を招聘し、評価して頂いたり、生徒への助言もして頂いたりしている。指導・助言者や保護者から生徒の活躍に対し、高い評価を頂いている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

広島県ユネスコスクール連絡協議会主催のESD研修会に参加し、広島県内のユネスコスクールの実践発表を聞き、研修を深めていった。また、研修会で他のユネスコスクールと交流することで、よりESDの指導について情報交換することができた。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

広島県ユネスコスクール連絡協議会で他のユネスコスクールの実践発表を聞いたり、分科会で交流したりすることで、情報交換することができた。また、研究紀要で本校の実践をまとめることで、情報発信することができた。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項2-5に対応

中学校では、第2学年は日本語で、第3学年は英語でディベートを行っている。毎年、論題をESDの観点から設定しており、生徒たちは自分たちの主張を述べるに当たり、環境や経済、医療や地元産業など様々な視点から物事を見るようになり、多角的多面的な視野をもつようになった。また、相手の意見を受け取り、その上で吟味し、自分の意見を伝えるなど、コミュニケーション能力や批判的思考力・判断力も高まっている。高等学校では、SGHの取組以外にも海外からの来校が増え、生徒の視野が広がっている。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

中学校では、引き続き、学校指定教科である「ことば科」を中心に、各教科で関連させながら系統的に指導を行う。
高等学校では、引き続き、「総合的な学習の時間」を中心に、また、スーパー・グローバル・ハイスクールの学習内容と関連させながら系統的に指導を行う。